



2021年3月期 第2四半期決算説明会

2020年11月19日

代表取締役社長

實吉 政知

	ページ
1. テクノメディカの歴史・主要製品	… 2-4
2. 新型コロナウイルス感染症への対応	… 5-8
3. 2021年3月期 第2四半期決算	… 9-24
4. 第2四半期トピックス	… 25-29
5. 2021年3月期 業績見通し	… 30-33
6. 2020中期経営計画	… 34-38



テクノメディカの歴史・主要製品

1987年	9月	神奈川県川崎市高津区にて創立
1988年	9月	全自動血液ガス分析装置の販売を開始
1991年	4月	自動採血管準備装置の販売を開始
	6月	かながわサイエンスパークに開発センターを設置
1997年	3月	本社社屋の竣工（横浜市都筑区仲町台）
1998年	6月	本社第2研究所竣工 ⇒ 研究開発部門の充実
2004年	12月	ジャスダック証券取引所へ店頭登録
2005年	9月	本社第3研究所竣工 ⇒ 研究開発部門 + 物流の充実
2007年	3月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
2008年	3月	東京証券取引所市場第一部に指定
2009年	7月	本社第4ビル竣工 ⇒ 生産業務施設の充実
2012年	9月	ヘルスケアセンターを開設 ⇒ ヘルスケア部門の研究開発強化
2019年	7月	テクノメディカ台湾支店の開所
	8月	横浜港北に物流倉庫の開設
2020年	4月	2020中期経営計画策定
		新型コロナウイルス感染症への対応
	7月	中型自動採血管準備装置・システムの販売を開始

● 品目別に見た主要製品

		製品名				
採血管準備装置 ・システム	 <p>採血管準備装置 BC・ROBO-8001RFID</p>	 <p>卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7</p>	 <p>RFID検体情報 統括管理システム TRIPS</p>	 <p>全自動尿分取装置 UA・ROBO-2000RFID</p>	<p>アンテナ ボックス</p> <p>採血管 スタンド</p>	
	検体検査装置	 <p>血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル</p>	 <p>ハンディ型血液ガス分析器 GASTAT-navi</p>	 <p>電解質測定器 STAX-5 Inspire</p>	<p><その他></p> <p>赤血球沈降速度測定装置</p> <p>尿中酸化ストレスマーカー測定システム</p> <p>等</p>	
消耗品等		 <p>各種採血管</p>	 <p>ラベル</p>	 <p>センサーカード</p>	 <p>電極</p>	 <p>ハロンカップ</p>



新型コロナウイルス感染症への対応

● はじめに

このたびの新型コロナウイルス感染拡大に関し、罹患された皆様ならびに外出自粛など影響を受けている全ての皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。
また、医療従事者をはじめ感染防止にご尽力されている皆様に、深く感謝申し上げます。

当社はお客様及び従業員の健康・安全の確保を最優先に、感染拡大防止に取り組むとともに、医療機器メーカーとしてのできる限りのサービス提供の継続をしております。

● 事業継続のための優先順位

1. 技術サービス業務の維持

各医療施設での当社機器の安定操業が維持されるよう、技術サービス要員が、安全、かつタイムリーに稼働可能な体制を敷き、在宅勤務、時差出勤、フレックスタイム制度等を導入

2. 消耗品等、受注業務の維持

消耗品等の欠品を避けるため、生産従事者を2班に分け増員、作業場所も分離する等、万が一罹患者が出ても、生産が維持できる体制を構築

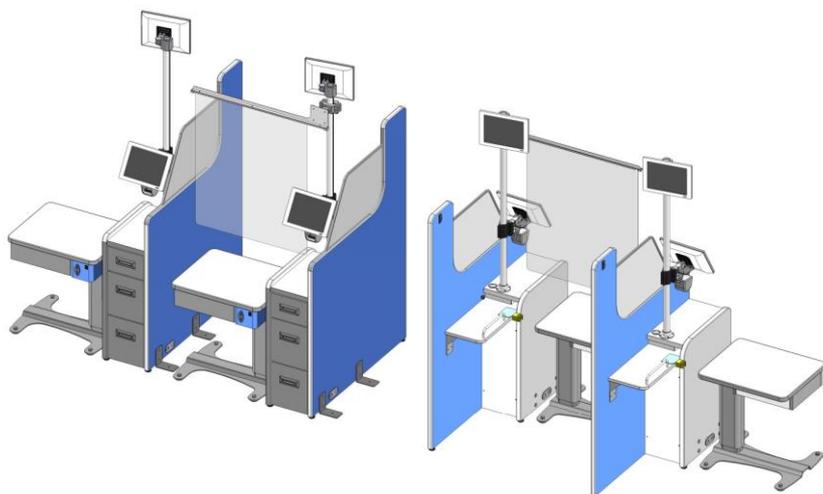
● 採血業務の感染予防対策品の提供開始

採血台飛沫防止シート

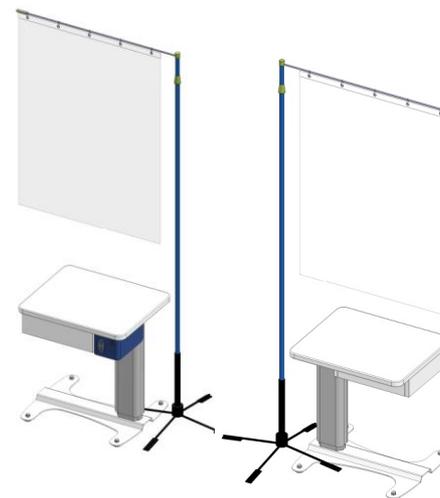
【主な特徴】

- ・ テクノメディカ採血台にジャストなサイズ
- ・ 採血患者の視認性を確保した透明シート仕様で、シートは拭き取り消毒可能
- ・ お客様自身で取付、組立が可能、また、不要の際はお客様自身で簡単に取り外し可能

【Aタイプ】（ポール取付型）



【Bタイプ】（スタンド型）





2021年3月期 第2四半期決算

● 決算サマリー：売上・利益とも計画線で着地

(単位：百万円)

	2020/3期 2Q累計		2021/3期 2Q累計		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	4,704	100.0%	3,701	100.0%	△21.3%
営業利益	605	12.9%	404	10.9%	△33.2%
経常利益	607	12.9%	412	11.1%	△32.2%
四半期純利益	493	10.5%	281	7.6%	△43.0%
1株当たり純利益(円)	58.1	—	33.2	—	△42.8%
1株当たり純資産(円)	1,609	—	1,653	—	+2.7%

● 品目別売上高（全体）

：採血管準備装置・システム大幅減収/検体検査装置は大幅増

（単位：百万円）

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2020/3期	2021/3期	
				2Q累計	2Q累計	前期比
採血管準備装置 ・ シ ス テ ム	3,523	3,803	4,233	1,993	982	△50.7%
構成比	40.7%	40.8%	43.2%	42.4%	26.5%	—
検体検査装置	517	620	570	265	392	+48.0%
構成比	6.0%	6.6%	5.8%	5.6%	10.6%	—
消 耗 品 等	4,613	4,908	5,006	2,445	2,326	△4.9%
構成比	53.3%	52.6%	51.0%	52.0%	62.9%	—
合 計	8,654	9,332	9,810	4,704	3,701	△21.3%

● 決算（前年同期比）のポイント・トピックス

売上高 増加要因

採血管準備装置・システム

⇒ 国内で大型更新案件が一巡し大幅減収、海外は新型コロナの影響薄れ増収
＜ 国内56%減、海外5%増 ＞

検体検査装置

⇒ 海外で新型コロナの影響によりハンディタイプの血液ガス分析装置が伸長
＜ 国内12%増、海外173%増 ＞

消耗品等

⇒ 国内は新型コロナの影響で減少、海外で血液ガス分析装置の消耗品が急伸
＜ 国内8%減、海外47%増 ＞

販管費 減少要因

コロナ禍における諸経費削減、営業活動の自粛

トピックス

中型採血管準備装置・システムを新発売

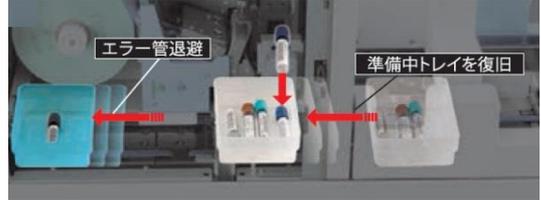
● 主力製品 BC・ROBO-8001 RFID について

自動採血管準備装置
BC・ROBO
8001
RFID

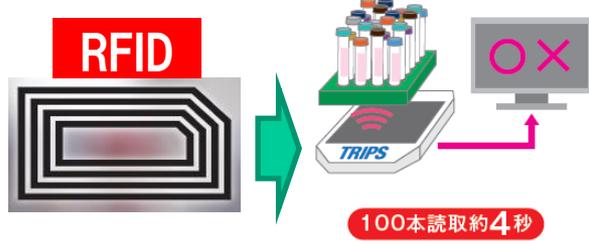
4
つ
の
新
機
能



IoTサポート
⇒ 自動起動機能 等



自動復旧
⇒ 発行動作の停止を回避



RFID連携強化
⇒ 検体トレーサビリティの強化



自動学習
⇒ メンテナンス時期のアラート 等



大型案件・採血業務支援システム Assist More

採血受付

採血の診察券、受付票の読取データに応じて採血整理券を自動発行

患者呼出
採血情報表示
患者照合
採血カルテ登録

採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血管準備

BC・ROBO

バーコードラベルを貼り付けた採血管、採血指示書、手貼ラベル、コメントラベルをトレイにまとめて自動発行

オールインワン

採血管

採血指示書

手貼ラベル

コメントラベル



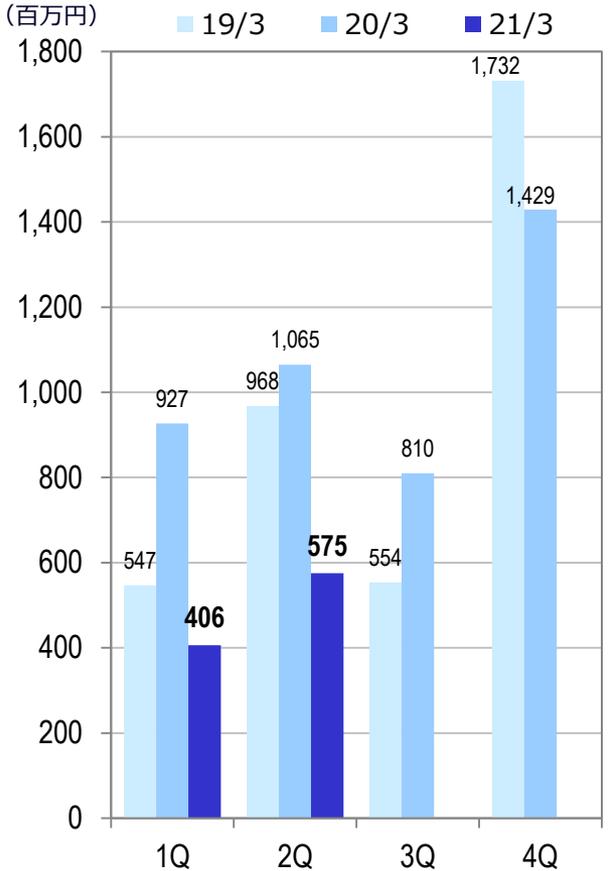
患者照合



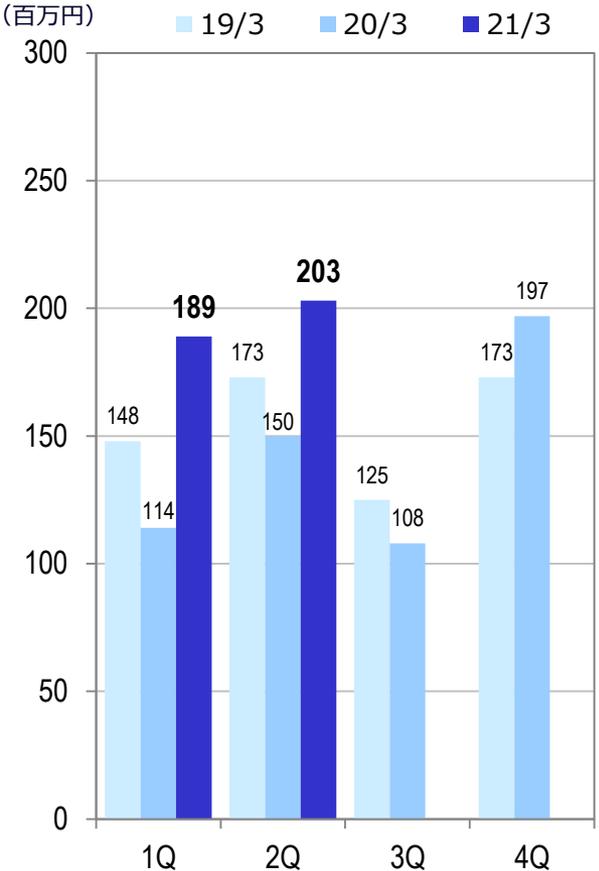
患者照合の上、RFIDで採血管バーコード情報を瞬時に照合 ⇒ 安全性・効率性アップ

● 品目別売上高（四半期別）：検体検査装置は大幅伸長

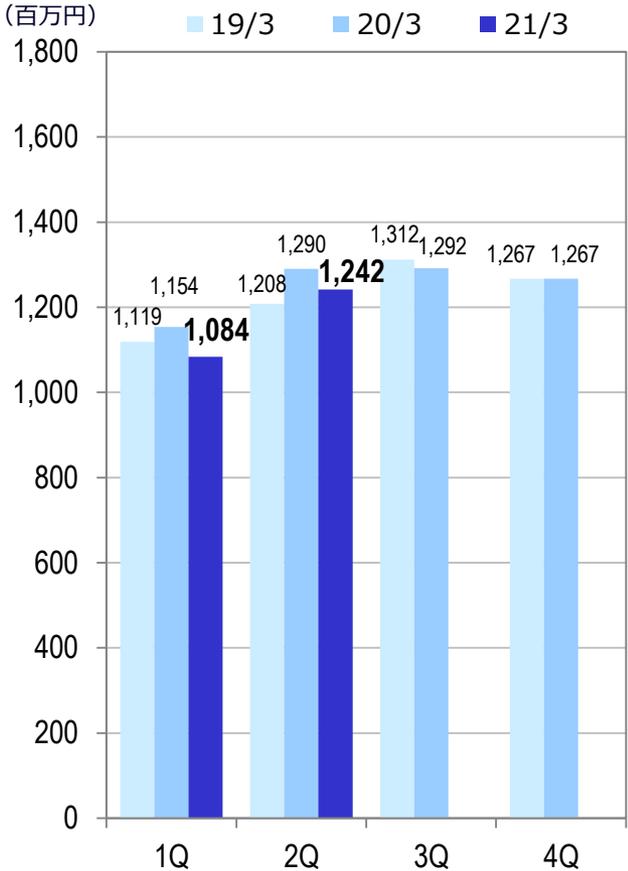
採血管準備装置・システム



検体検査装置



消耗品等

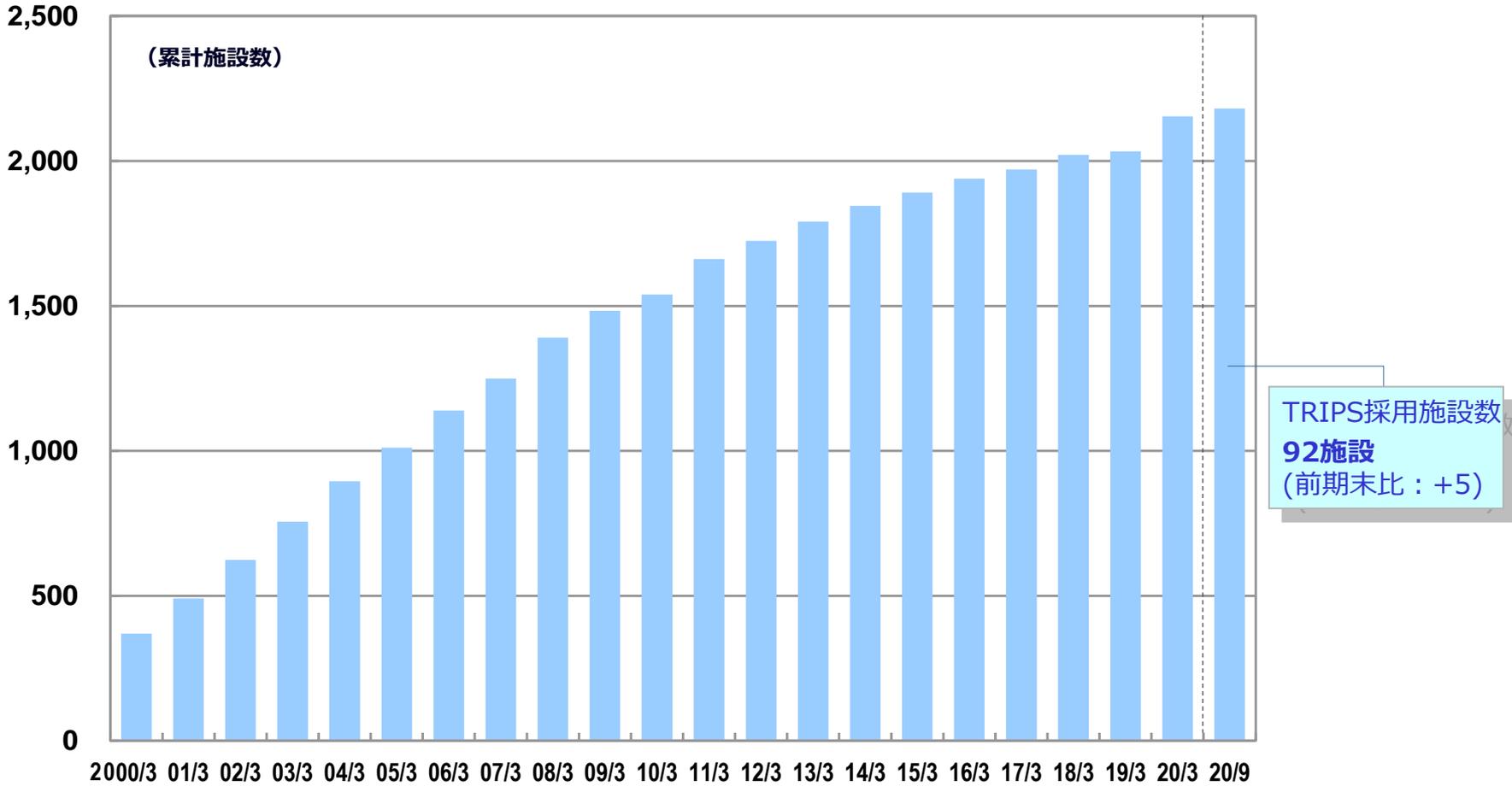


● 採血管準備装置・システム – BC・ROBO納入施設数

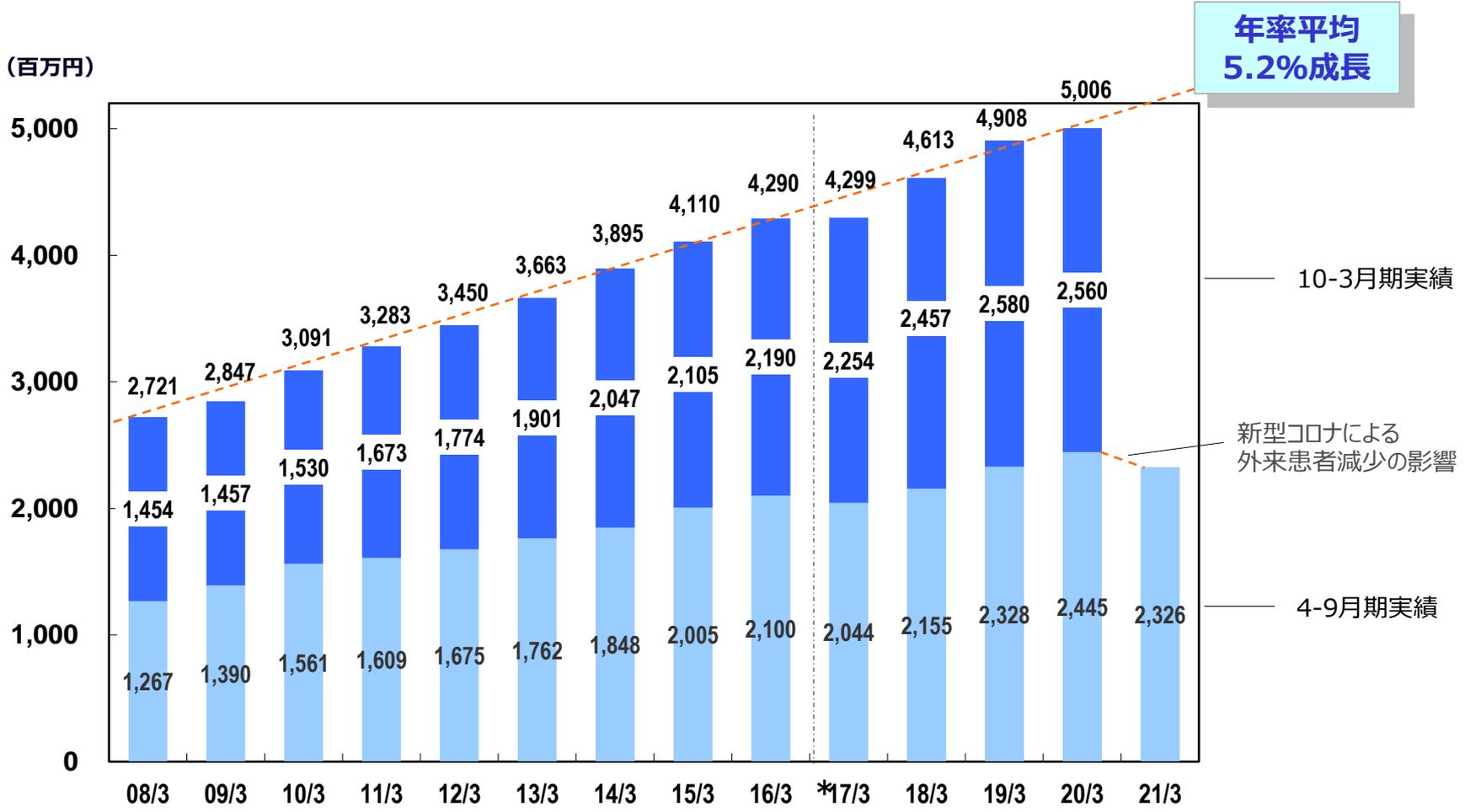
	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2020/3期	2021/3期	
				2Q累計	2Q累計	前期差
納入施設数	298	313	429	192	148	△44
国内	209	163	271	134	71	△63
うち新規	50	34	121	37	27	△10
うち更新	159	129	150	97	44	△53
輸出	89	150	158	58	77	+19

- ・国内：新規導入は27施設
大型の更新案件が一巡し、更新需要は端境期
- ・輸出：新型コロナの遅延案件の進展あり

● 採血管準備装置・システム – 国内納入施設の推移



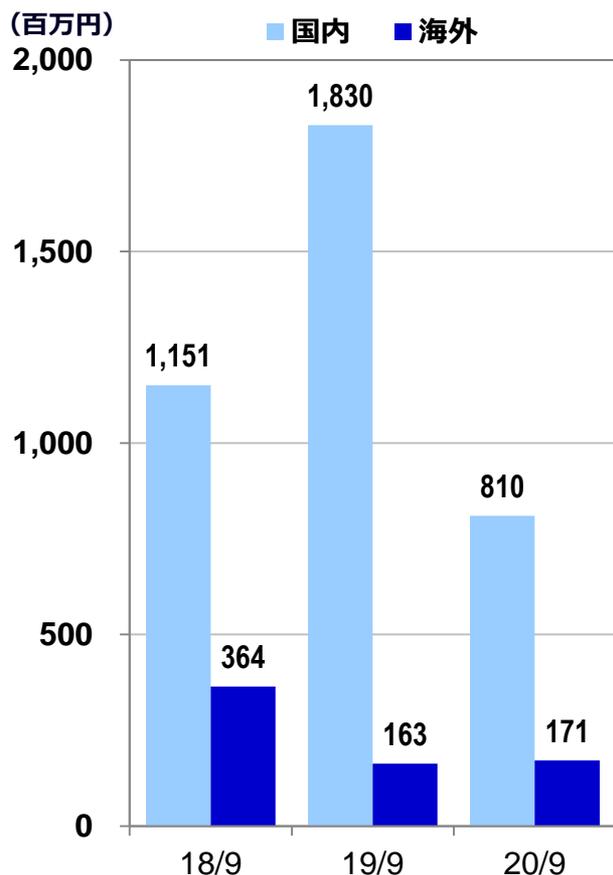
● 消耗品等（含む保守料）の売上高推移



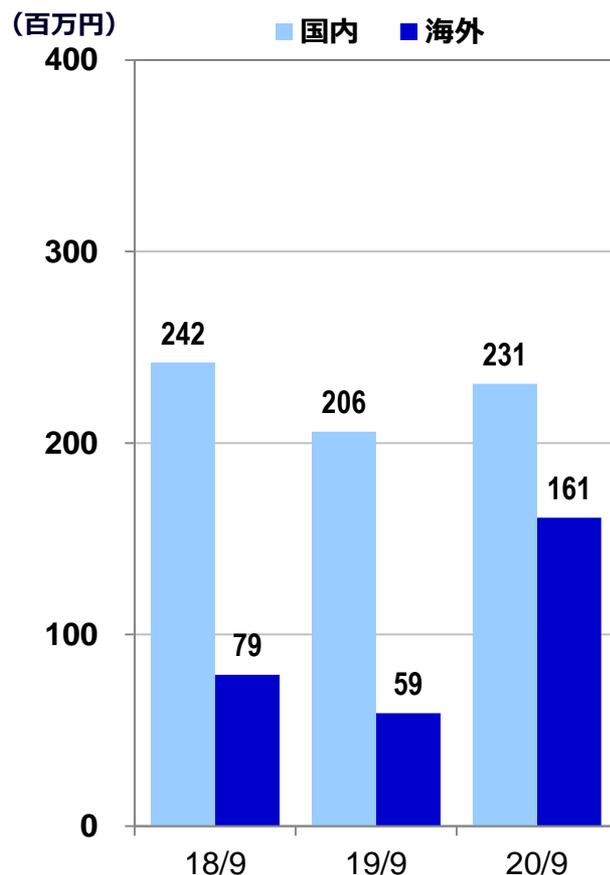
* 17/3期より保守料の計上方法を変更

● 品目別売上高（国内・海外別）：国内反動減、海外堅調

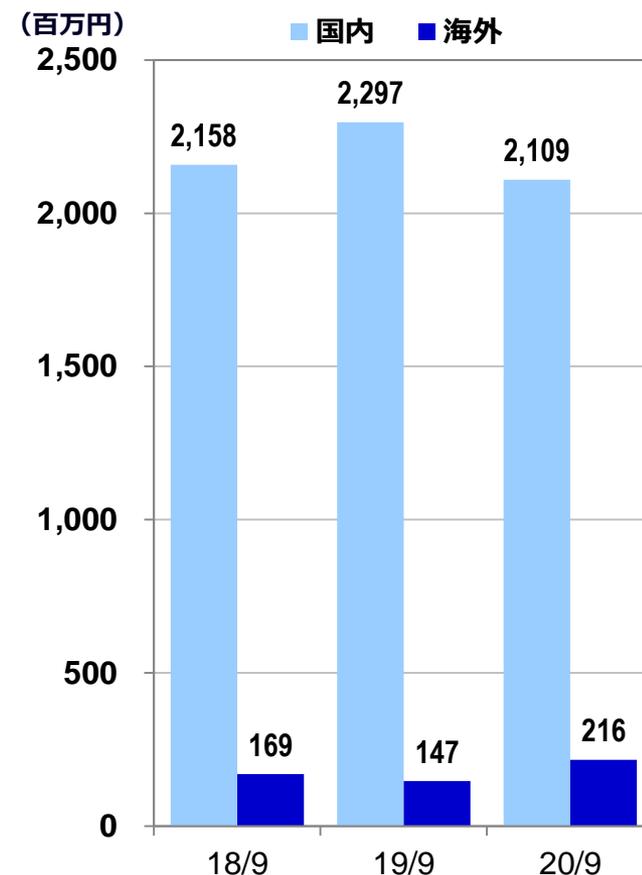
採血管準備装置・システム



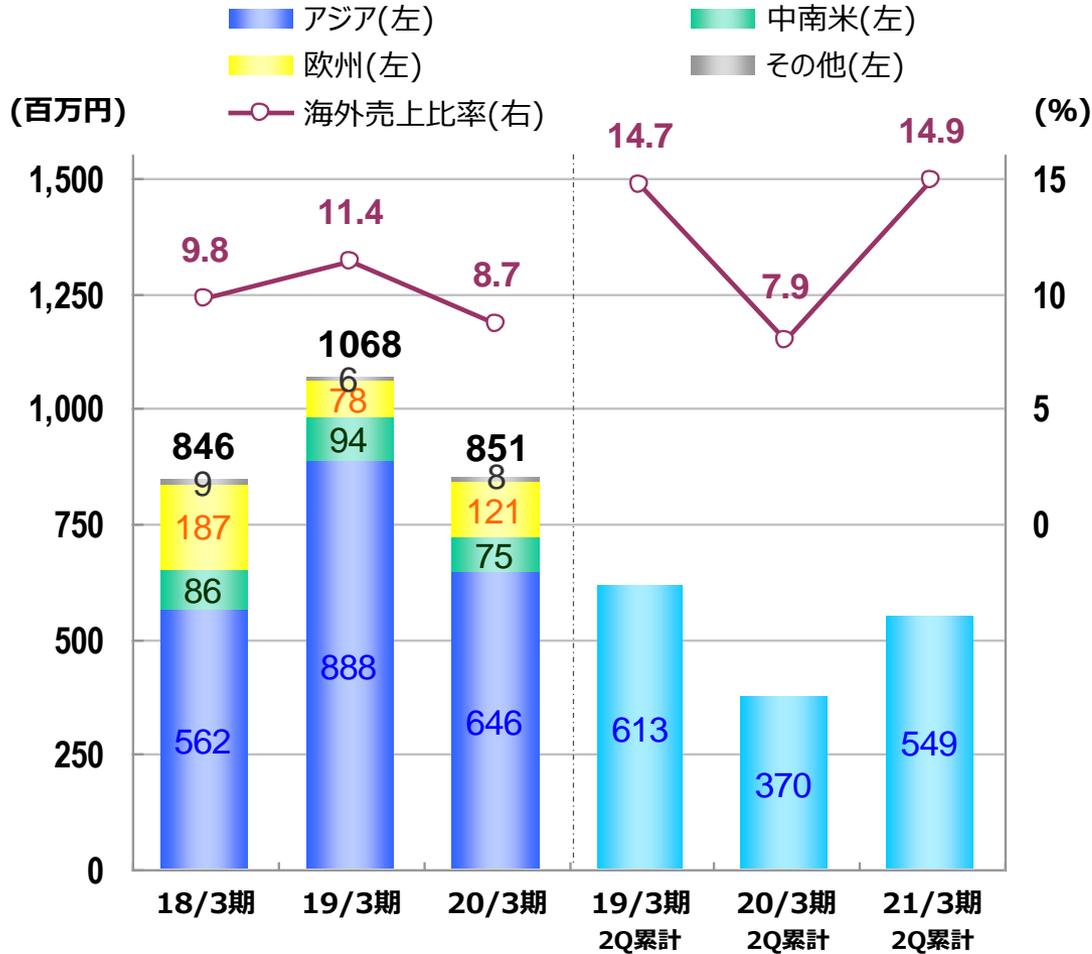
検体検査装置



消耗品等



● 海外売上高



[2021/3期 2Q累計]

- 採血管準備装置・システム
… 新型コロナの影響で遅延していた案件に進展
- 検体検査装置
… 新型コロナの影響により、緊急検査等用のハンディタイプ型の販売伸長
- 消耗品等
… 血液ガス分析装置用消耗品の受注が集中

● 要約損益計算書

(単位：百万円)

	2020/3期 2Q累計		2021/3期 2Q累計		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	4,704	100.0%	3,701	100.0%	△21.3%
売上原価	2,582	54.9%	1,932	52.2%	△25.2%
売上総利益	2,122	45.1%	1,769	47.8%	△16.7%
販売管理費	1,516	32.2%	1,364	36.9%	△10.0%
営業利益	605	12.9%	404	10.9%	△33.2%
営業外損益	2	—	7	—	—
経常利益	607	12.9%	412	11.1%	△32.2%
特別損益	69	—	—	—	—
法人税、調整額等	183	—	130	—	—
四半期純利益	493	10.5%	281	7.6%	△43.0%

諸経費の削減努力、営業活動の自粛、大型開発案件の谷間等により、販売管理費を削減

● 要約貸借対照表【資産の部】

(単位：百万円)

	2020/3期末		2021/3期 2Q末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動資産	14,512	87.6%	14,031	87.3%	△480
現預金	9,762		10,093		+331
売上債権	3,322		2,159		△1,163
棚卸資産	1,359		1,698		+338
その他流動資産	68		80		+12
固定資産	2,057	12.4%	2,034	12.7%	△22
有形固定資産	1,605		1,581		△23
無形固定資産	29		28		△1
投資等	423		425		+1
資産合計	16,569	100.0%	16,066	100.0%	△503

● 要約貸借対照表【負債・純資産の部】

(単位：百万円)

	2020/3期末		2021/3期 2Q末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動負債	2,227	13.4%	1,838	11.4%	△388
買入債務	1,081		897		△184
短期有利子負債	—		—		—
その他流動負債	1,145		940		△204
固定負債	193	1.2%	203	1.3%	+10
長期借入金	—		—		—
その他固定負債	193		203		+10
負債合計	2,420	14.6%	2,042	12.7%	△378
純資産合計	14,149	85.4%	14,023	87.3%	△125
負債・純資産合計	16,569	100.0%	16,066	100.0%	△503

● 要約キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2020/3期 2Q累計	2021/3期 2Q累計	
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	877	758	△119
投資活動によるキャッシュ・フロー	△296	△72	+223
財務活動によるキャッシュ・フロー	△602	△414	+187
現金・現金同等物の増加額	△21	270	+292
現金・現金同等物の期首残高	7,200	7,313	+113
現金・現金同等物の期末残高	7,178	7,584	+405
研究開発費	258	183	△75
設備投資実施額	222	10	△212
減価償却実施額	43	58	+14

フリーキャッシュフローはプラスで安定的に推移、基盤整備、研究開発投資に活用を検討



第2四半期トピックス

● 中型自動採血管準備装置・システム

New BC・ROBO-900

2020年7月1日
発売開始



製品コンセプト

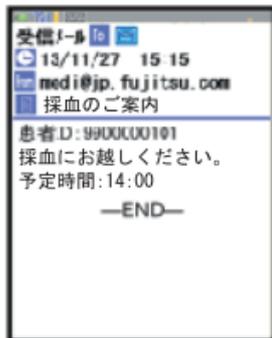
1. 省スペース 1ユニット8管種を実現
2. プリントカートリッジ方式で簡単交換
3. セミオートローディングによるラベルセット
4. プリント自動選択動作による休止時間低減
5. 装置自動起動と動作待機（朝のセットアップ）
6. 優先発行時のトレイ外部排出機能
7. 採血管ロットごとの有効期限チェック機能

● 三密対策・中型採血メール通知システム (採血患者へ待合情報をスマホメール通知)

- 採血待合場所での混雑緩和
- 離れた場所でも安心待機
- 待ち時間・採血情報お知らせ (患者に優しい)

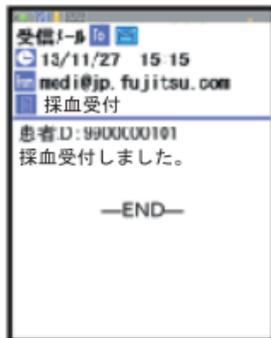
① 受付前

採血予定時間等のメール送信



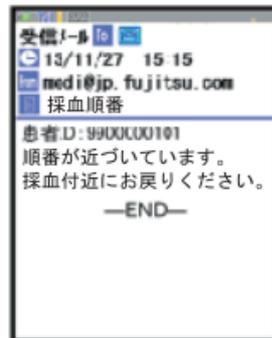
② 採血受付

採血受付完了等のメール送信



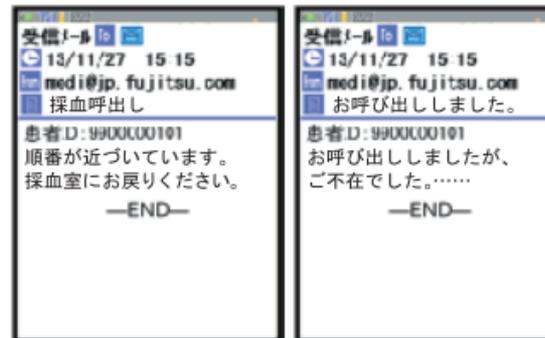
③ 採血待合

採血順番等のメール送信

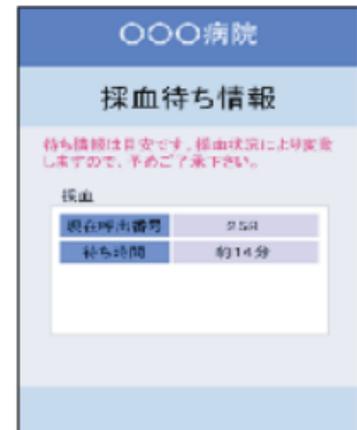


④ 採血室

採血呼出・採血時不在等のメール送信



採血状況告知画面



● 予約採血コントロールオプション

- 診察予約時間に合わせた採血 待ち時間の適正化
- 朝の採血集中を分散化（混雑解消）
- 院内滞在時間の短縮化

例 導入後の活用イメージ

次回診察予約は11時です
採血予約は1時間前から
なります

患者様は採血予約時間に合わせて来院する為、採血 / 診療待ち時間の適正化に繋がります

待ち時間の適正化！

待ち時間の適正化！

診察予約時に
採血予約

採血受付
10:00

採血

診察
11:00

院内滞在時間の短縮化

● 研究開発センター開設 (2020年9月)

～研究開発部門の人員を研究開発センターに集約～

開設の目的

- ・ 研究開発部門の情報・リソースを共有化し新分野への水平展開と、開発期間の短縮
- ・ トータル開発コストの低減と品質向上を狙う
- ・ 長期視点での技術資産の安定と成長

施設の概要

名 称 テクノメディカ 研究開発センター

所 在 地 横浜市都筑区池辺町4388
港北住倉ビル5F

運用開始 2020年9月1日

人 員 研究開発本部 約40名





2021年3月期 業績見通し

● 2021年3月期 業績見通し

(単位：百万円)

	2020/3期		2021/3期 (予)		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,810	100.0%	9,200	100.0%	△6.2%
営業利益	1,257	12.8%	1,000	10.0%	△20.5%
経常利益	1,269	12.9%	1,000	10.0%	△21.2%
当期純利益	1,000	10.2%	700	7.0%	△30.0%
1株当たり純利益(円)	117.8	—	82.5	—	—
1株当たり配当金(円)	49.0	—	49.0	—	—
研究開発費	676	6.9%	800	8.7%	+18.3%

通期目標 売上高92億円、営業利益10億円（2020年5月13日決算短信値）を目指す

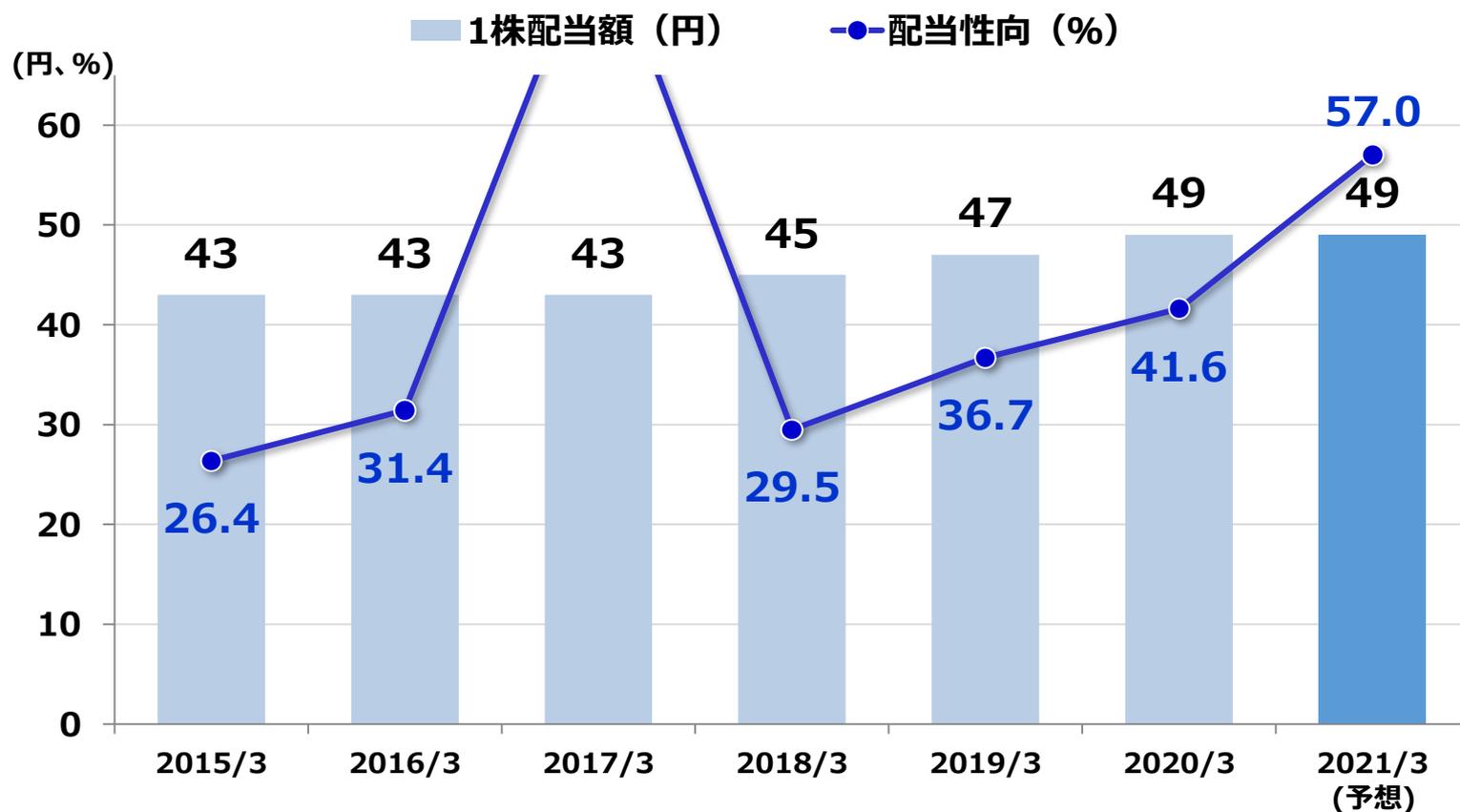
● 2021年3月期 品目別売上高見通し

(単位：百万円)

	2020/3期		2021/3期 (予)		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,810	100.0%	9,200	100.0%	△6.2%
採血管準備装置 ・ システム	4,233	43.2%	3,857	41.9%	△8.9%
検体検査装置	570	5.8%	560	6.1%	△1.8%
消耗品等	5,006	51.0%	4,783	52.0%	△4.5%

【配当性向の目標】

30%~40%を当面の目安として目指す





2020中期経営計画

2020年中期経営計画のもと、 更なる安定成長へ向けて

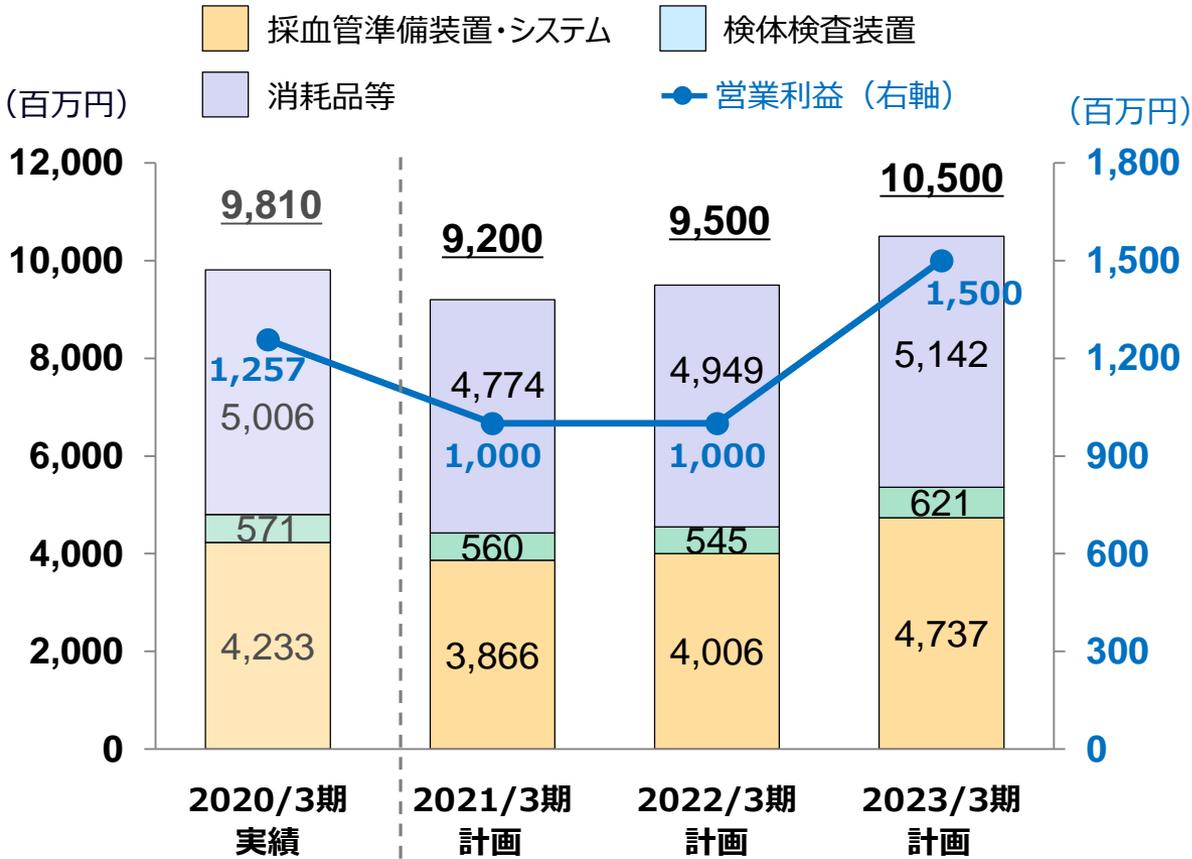
2017年度からの3か年中期経営計画期間中は、
着実な売り上げ増に伴い、計画以上の利益を確保

順調な事業拡大を図ることができた

2020年度からの新3か年中期計画は、
更なる安定成長を目指す

今後の持続的な成長に向け、
事業基盤の強化、積極的な研究開発投資を推進

売上高（セグメント別）・利益計画



【3か年累計】
売上高：292億円
営業利益：35億円
 ※海外売上高：53億円

売上高 営業利益率	2020/3期 実績	2021/3期 計画	2022/3期 計画	2023/3期 計画
	<u>12.8%</u>	<u>10.9%</u>	<u>10.5%</u>	<u>14.3%</u>

● 研究開発

1. 研究開発センター設立による研究開発体制の集約

- ◆ 研究開発部門を研究開発センターに集約
- ◆ 保有技術の集約と連携により市場への水平展開、及び開発スピードの向上を図る
- ◆ トータル開発コストの低減と品質向上

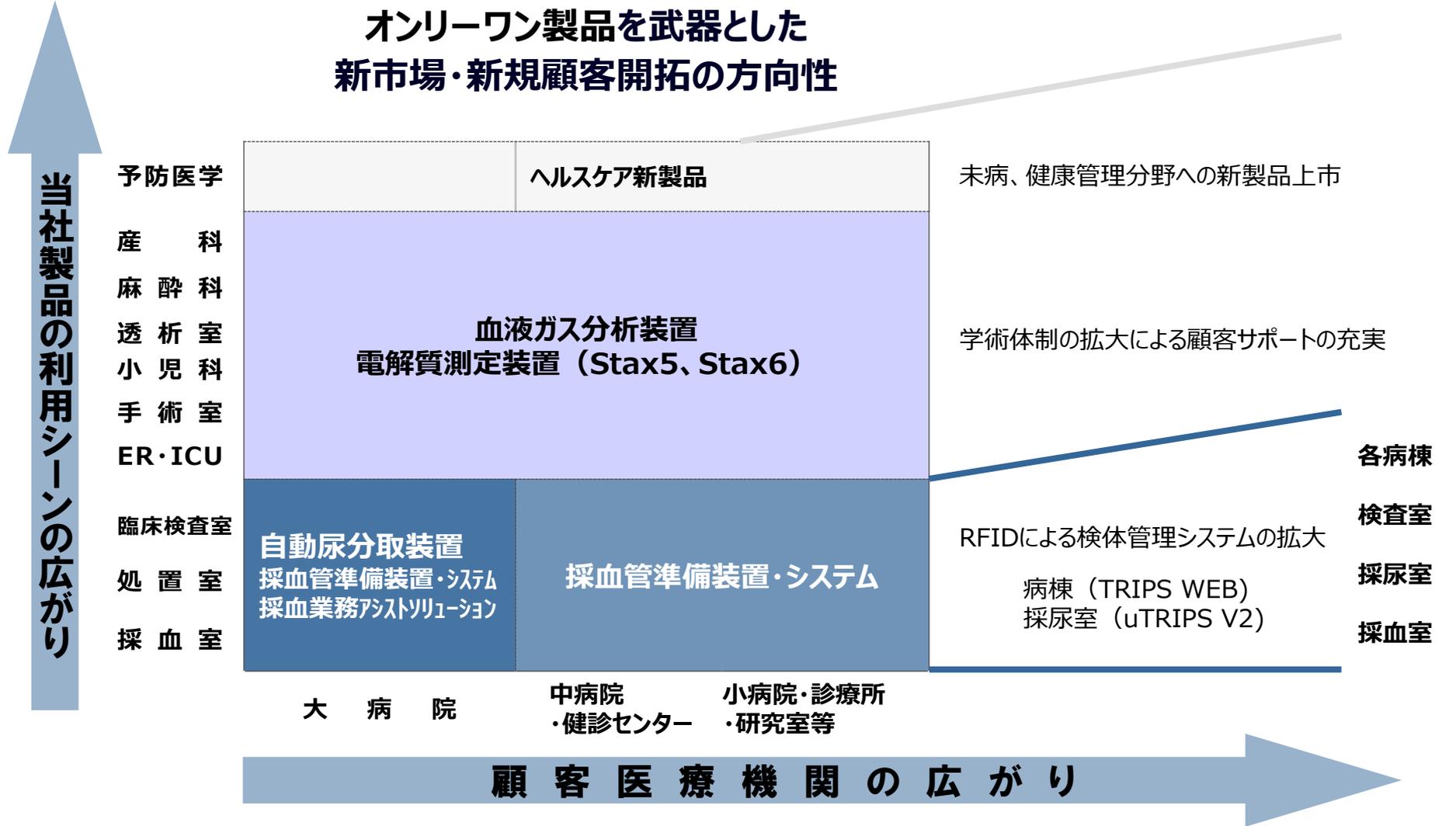
2. 採血管準備装置・システム

- ◆ RFIDソリューションで市場拡大（病棟採血、採尿、感染対策）
- ◆ 海外市場に特化した製品アイテムの充実化
- ◆ 国内採血管準備装置・システムは更なるユーザー要求実現のための体制強化
- ◆ IT技術の変化に伴う製品プラットフォームのアップデート

3. 検体検査装置

- ◆ 検体検査機器のための新型センサへの取り組み
- ◆ 学術的な顧客サポートの充実化
- ◆ 尿試料による未病検査システム(ICR-002)でのヘルスケア分野の展開
- ◆ 消耗品拡大への効率的生産環境の構築

オンリーワン製品を武器とした 新市場・新規顧客開拓の方向性



<注意事項>

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。